

報告

地域医療に関わる地域別意見交換会 道南ブロック・空知ブロック

常任理事・地域医療部長 伊藤 利道

本意見交換会は、当会から長瀬会長を始め当会役員が地域に出向き、地元医師会役員・会員から地域医療の現状を直接伺うため、平成20年度から開催している。今年度は通算21回目を函館市で、22回目を砂川市で開催した。

【道南ブロック】

平成28年8月5日（金）19時より、ホテル函館ロイヤルで開催した。出席者は函館市医師会から本間会長ほか5名、渡島医師会から小笠原会長ほか1名、北海道保健福祉部から粟井局長ほか1名、渡島・檜山振興局から計3名、道医から長瀬会長ほか6名であった。

初めに、地域医療にかかわる諸問題として道医の役員から説明があった。小熊副会長より「地域医療構想」「地域枠医師キャリア形成支援制度」について、藤原副会長より「緊急臨時的医師派遣事業」について、目黒常任理事より「救急医療体制」について説明を行った。

続いて「地域医療の現状と課題」について意見交換が行われた。「函館市では、午後7時30分～午前0時30分の間の一次救急は、函館市医師会夜間急病センターで対応しており、それ以降は二次救急医療機関で対応している。日曜の救急当番については、小児科医が少ないため、内科の先生にも年に3～4回対応を依頼している。小児科医の平均年齢は60.3歳と高齢化が進んでいる。今後、小児科や産婦人科は集約化することが必要と思われる。今回の地域医療構想は集約化する良いチャンスではないか。渡島医師会では函館市の夜間急病センターに会員を派遣し、函館市医師会とともに函館・北斗・七飯地域の夜間の初期救急医療体制の一端を担っている。松前・木古内・森各町は公立病院が夜間・休日の対応を行っている。」などの報告・意見が出された。

粟井局長より、「病院等の集約化については、地域医療構想により医師会と首長と大学と地域の中核病院と北海道の5つが協力して進めていく必要がある。」との総括があった。



道南ブロック会場風景



【空知ブロック】

平成28年8月26日（金）18時半より、砂川パークホテルで開催した。出席者は岩見沢市医師会から倉増会長、空知南部医師会から牧野副会長、夕張市医師会から中條会長、三笠市医師会から川崎会長、美唄市医師会から井門会長（医療政策等検討委員会委員）ほか1名、空知医師会から明円会長ほか3名、滝川市医師会から男澤会長ほか1名、赤平市医師会から郡会長ほか1名、芦別市医師会から藤嶋会長ほか1名、北海道保健福祉部から村木部長、大竹地域医療構想担当局長ほか1名、空知総合振興局から荒田技監ほか3名、道医から長瀬会長ほか5名であった。

初めに、地域医療にかかわる諸問題として道医の役員から説明があった。笹本常任理事より「地域医療構想」について、小熊副会長より「地域枠医師キャリア形成支援制度」について、小職より「緊急臨時的医師派遣事業」について説明を行った。

続いて「地域医療の現状と課題」について意見交換が行われた。各地域とも開業医数の減少、高齢化のため休日や夜間の時間外診療が困難になりつつあることが報告された。岩見沢市の北海道中央労災病院、美唄市の北海道せき損センターが二次救急から撤退したため、それぞれの市立病院の負担が大きくなり、医師会が夜間・休日の救急医療に援助・協力していることが報告された。

空知医師会より、地域包括ケアネットワークシステム「砂川みまもりんく」が昨年11月から砂川市でスタートしたことが報告された。これは砂川市の医療と介護を一体的に支援する地域医療ネットワーク事業である。砂川市立病院が個別管理していた患者の検査データ等の情報に患者の許可のもと、ネットワーク経由で、病院や診療所、調剤薬局、介護保健施設等でアクセスすることができるため、医療機関同士の患者紹介や退院時の紹介などをスムーズに行うことができる。また、中空知の6つの自治体病院の患者情報を共有するネットワークシステム「そらねっと」についても報告があった。

滝川市医師会から、「在宅医療を行う訪問看護師

の希望者が少ないため、滝川市では在宅医療の構築が難しい。また、在宅医療グループ診療運営事業を滝川市で今年2月・3月に行った。在宅医療機関が4つ、後方支援として滝川市立病院が24時間待機するというものであったが、このようなシステムがあれば24時間の対応が可能である。」との報告があった。

総括として、北海道保健福祉部の村木部長から「地域医療構想については、全道レベルの検討段階であり、いかなる姿にしていくかが重要である。ICTを含めネットワーク型の地域医療というものを目指していかなければ難しいと思われる。地域を支える医師をどう確保していくべきか、道も精力的に対応していきたい。地域枠医師については今年4月から7名の札幌医大卒の医師が地域勤務を始めた。来年からは旭川医大も地域勤務を開始することとなり、毎年32名の医師が地域で勤務することとなる。8年経過すると約160名が地域枠医師として勤務することとなり、少し時間はかかるが、今の医師不足が少し

は解消されると思っている。自治医大の医師も含め、我々としても地域の医師確保について協力していきたい。」とのコメントがあった。



空知ブロック会場風景



両会ともお忙しい中、ご出席いただいた地元医師会役員・道庁(各振興局)の方々に感謝申し上げます。

お知らせ

北海道

平成28年度かかりつけ医認知症対応力向上研修

高齢者が日ごろより受診する診療所等の主治医（かかりつけ医）に対し、適切な認知症診断の知識・技術や家族からの話や悩みを聞く姿勢を習得するための研修を実施いたします。

◎日時・場所：平成29年1月21日（土）14：00～17：35
かでの2.7 7階 710会議室（札幌市中央区北2条西7丁目）

◎実施主体：北海道

◎研修対象者：医師（診療科は問いません）

◎定員：96名

◎受講料：無料

※北海道医師会認定生涯教育講座 3.5単位

1（医師のプロフェッショナルリズム）、4（医師－患者関係とコミュニケーション）
9（医療情報）、12（地域医療）、13（医療と介護および福祉の連携）
29（認知能の障害）、0（その他）

※申込方法については北海道HPよりご覧ください。

掲載URL <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/khf/ninchishou/h28kakaritsukeikensyuu.htm>

【連絡先】北海道保健福祉部高齢者支援局高齢者保健福祉課地域包括ケアグループ

〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目

電話 011-231-4111（内線25-669）